

## 第6回新潟地域看護研究会を開催しました

## テーマ 事例検討をととして保健師固有の支援技術を学ぼう！

2020年2月1日(土) 場所：新潟大学医学部保健学科

社会人学び直しWG「高度実践看護師等育成事業」では、社会人の学び直しの機会を提供し、新潟県における高度実践看護師等の地域包括ケアを担う保健医療人材の育成と定着化を図るとともに、高度実践看護師等の啓発普及、人材育成プログラムの検討・開発等を行ってきました。

事業の最終年度を迎え、新潟県内の保健師の実践能力・支援技術の向上と地域看護専門看護師(以下、地域看護CNS)の活動の普及と定着化を図ることを目的として、第6回新潟地域看護研究会を開催しました。

## 地域看護CNSからのコンサルテーションによる事例検討 10:00~12:30

## 「精神疾患を抱える母親への支援について」

事例提供者：新潟市中央区健康福祉課中央地域保健福祉センター 保健師 上村萌

相談・助言者：新潟県総務管理部人事課健康管理室 主査 室岡真樹(地域看護CNS)

ファシリテーター：新潟大学大学院保健学研究科 教授 小林恵子

上村萌保健師さんからは、精神疾患を抱える母親(Aさん)の事例が提供されました。妊娠期から支援を開始しているAさんは気分や体調に波があり支援プランのアセスメントや関係の構築が難しく、これまでの関わりについて振り返りを希望されていました。地域看護CNSのコンサルテーションを得て現在までの支援を振り返りながら、このような対象者への支援の在り方を具体的に検討しました。

最初にAさんの気分や体調が不安定であった場合の育児へのリスクをアセスメントしながら、支援目標を検討していきました。Aさんのもつ強みとして、几帳面で周囲に対して気を遣う性格や定期的な医療機関の受診・服薬によって症状をコントロールしている状況を共有したうえで、Aさんの「体調をコントロールすること」や「無理のない育児ができること」が支援目標であることを確認しました。

次に支援目標をもとに、妊娠中および出産後の支援プランを検討しました。その結果、妊娠期は「出産後の生活を見据え、一緒に育児の協力者・相談者を具体的に検討すること」、出産後は「家族の協力を得たり子育て支援サービスを利用したりしながら子育てを行えるように、サービスを調整すること」や「Aさんの疾患のコントロール状況を医療機関と共有すること」が必要であり、妊娠期から継続して支援していくことによって、出産後の生活や育児を具体的にイメージできるように支援することが重要であるとわかりました。



また、Aさんと信頼関係を形成するために、保健師が支援者としてどのようにAさん（の人生）に向き合うか、どのように保健師の役割を伝えたらよいかについて検討しました。

参加者からは、日々の活動の中で信頼関係を築くために心がけていることが紹介されました。対象者へ肯定的なメッセージを伝えて一緒に関わり続けることや、状況が良い時にも関わる存在であることを伝えることが重要であると確認しました。

これらの検討を通して、保健師は状況をアセスメント・予測し、問題が起こる前に予防的に関わることが重要であり、保健師の専門性や役割にも気づくことができました。



### ○事例を提供して

様々な所属で保健師として活動されている方々と事例について検討する貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。今回の研究会を通して、問題が生じてからの対応に追われがちで、保健師として予防的に関わる意識が不十分だったことに気づくことができました。今後はより保健師としての役割を自覚するとともに、目的を明確にして支援していきたいです。（上村 萌）

### 参加者・アンケート結果

#### 1. 参加者 検討メンバー17名、オブザーバー6名、教員5名 計28名

参加者の内訳

所属	人数（名）	所属	人数（名）
新潟県	2	その他	3
新潟市	9	学部学生	4
市町村（新潟市を除く）	5	新潟大学教員	5
		計	28

#### 2. アンケート結果（一部抜粋）

アンケート回収数：19件（回収率82.6%）※教員を除く

##### 1) 参加動機（複数回答）（n=19）



## 2) 事例検討を通しての気づきや学び (複数回答) (n=19)



## 3) 新潟地域看護研究会にまた参加したいと思うか

「とても思う」62.5%、「思う」37.5%と全員が継続参加を希望していた (n=16)。

### 事例検討を通しての具体的な気づきや学び (抜粋)

- ・ 予防的視点の大切さ、生活イメージを共に考えることの重要性を改めて感じた。
- ・ 良い時から (平時から) の関りが重要であることを実感した。
- ・ 対象者に「ときめいて」もらえる保健師の声がけは、今後も学んでいきたいものだと感じた。起こりうる問題や、潜在化していて見えにくい問題をアセスメントし、予測して介入する必要性について考えることができた良い機会だった。
- ・ 対象者の思い、価値観の理解アセスメントの大切さに気づいた。保健師の専門性を考えることができた (決して火消役ではない! )。
- ・ 特定妊婦として精神疾患を抱えている方の事例について、支援の巻き戻し (振り返り) をするという視点で、どのような支援が必要で、どのような関わりをすると良かったのか考えることができ、保健師の在り方・役割について考えることができた。
- ・ 「対象者の力になりたい、一緒に考えて一緒に頑張っていきたい」ということを伝えることが大切だと学んだ。困った時だけでなく、嬉しいことがあった時、喜び等も共有できることが大切だと感じた。

### 全体を通しての意見・感想 (抜粋)

- ・ 現場の保健師さんが対象者と関係を築いていく上で、どのような意識を持っているか知ることができて、とても学びになった。どのような伝え方をするかで、関係性や、頼られる存在になるかどうかが変わっていくということを学んだ (学生)。
- ・ 保健師さんが実際にどのように対象者の方と関係を築いているのか、具体的にイメージすることができ、より保健師という職種に興味を沸かした。これからはしっかりと勉強していきたいと思った (学生)。

## 第6回新潟地域看護研究会を終えて

「〇〇疾患を抱えた…」というテーマの場合、つい「疾患」に焦点があたってしまうことはありませんか。今回の事例検討では「疾患」による影響だけに捕らわれず、対象者個人の特性や生活背景をみることの重要性を考えることができたと思います。その人の特性を理解することで、その人なりのSOSのサイン、関わるべきタイミングを逃さないことにつながります。そのために事例検討等の機会を重ねることが、保健師の“気づきのアンテナ”を磨くことにつながり、さらにアセスメント力が磨かれていくと思います。見えない、あるいは見えづらいニーズを導き、対象者に即した個別支援ができるよう、“気づき”の機会を持ち続けてほしいと考えています。

室岡 真樹（地域看護CNS）

事例提供者の上村萌保健師さんからは、精神疾患から気分や体調の変化が大きく、支援のアセスメントや関係の構築が難しい母親の事例を提供していただきました。担当保健師として、対象者が安心して出産や子育てができるよう継続的に関わるなど、妊娠期から丁寧な支援を行っておられました。

母子保健分野では、妊娠期からの切れ目のない支援の提供が求められている中、新任期は、対象者との関係の築き方や、支援内容など、支援を行う際にさまざまな悩みや戸惑いが生じることが多くあります。その際には、まず、対象者に生じうる課題やニーズをアセスメントし、目標を整理した上で、必要な支援プランを一つひとつ検討していくことが重要になります。また、対象者と信頼関係を築くためには、保健師としてどのような役割を果たせばよいかを明確にし、対象者が安心して保健師の支援を受け入れることができるよう、「ときめく言葉」をうまく使いながら、保健師の思いを対象者に伝えていくことが重要であることが学べました。

今回の事例検討をとおして、これまでの支援を振り返ることで、保健師の専門性や役割、果たすべき使命を考えることができました。

お忙しい中、ご参加いただいた皆様、大変ありがとうございました。このような事例検討を通して、これからも保健師の専門性や固有の支援技術について、皆様と探求していきたいと思いません。

新潟大学大学院保健学研究科 成田 太一（事務局）

今年度で新潟大学COC+事業は終了となりますが、引き続き、新潟地域看護研究会として事例検討会などを開催していく予定です。

皆様、是非ご参加ください。

新潟大学大学院保健学研究科地域看護学領域

主催：新潟大学大学院保健学研究科地域看護学領域  
共催：新潟県 公益社団法人新潟県看護協会  
全国保健師長会新潟県支部 新潟県職員保健師会  
後援：新潟市 全国保健師長会新潟市支部

新潟地域看護研究会

〒951-8518 新潟市中央区旭町通 2-746

新潟大学大学院保健学研究科地域看護学領域

TEL: 025-227-0944（担当：成田）

Mail: chiiki@clg.niigata-u.ac.jp